

## いじめ

東中学校 1 年  
曾根 ゆい子

6年生の頃、いやもっと前から私はよく人を傷つける。始まりは小学1年生の頃。それまでとても仲がよかった友達との出来事です。その子は思ったことをすぐ口にだしてしまいう子でした。そのため、自分のあまりふれてほしくないところまではっきりと言われてしまうため、傷つくことも少しありました。今思えば友達だったからこそ気にせず話してくれたのでしょう。しかし、当時の私はいやなことをいやと言えず、傷だけが増えて、蓄積していきました。これがよくなかったのです。ある日、私と同じ思いをしている子と出会いました。話をしていくと、その子の悪口がどんどん出てきてしまい、ついには本当かも分からないうわさにまで耳をかたむけ、いつしかストレス発散をするかのようにその子の悪いところを探す毎日になっていました。その子の話になると意気投合し、とても一体感を感じ、楽しくなりました。そしてそれは悪口ではおさまらず、無視といった行動にも出てきてしまいました。この時点で立派ないじめなのに、当の本人達はまったくそう感じていませんでした。それから月日がたち、先生を交えて相談し、やっとこの出来事は幕をとじました。

私はいじめなど自分とは関わりがない、行う人の心が分からなかったのですが、このことを通して被害者づらをして相手が悪いように思いこみ、よくないことをやっているという自覚がないことがいかにずるく、無責任なことに気付きました。そして、いつ自分が加害者や被害者になるか分からないおそろしさを改めて実感しました。言葉で理解していると思っていても、いざこうなると全く理解していませんでした。

つまり、私がこの経験を通して伝えたいことは、もっと自分の言動、行動に気を配り、相手の気持ちを考えてほしいということ

です。いくら仲の良い友達でもなんでもやってよく、言っているいいわけではありません。友達だって人間です。それがいついじめの差し金になるか分かりません。そして、もし自分がいやだと思ったら、まずそれを相手に伝えてほしいです。周りの人を入れて仲間をつくりたい気持ちも分かります。私だってそうしました。けれど、自分を守るのは自分だけです。しかし、自分の本音を伝えることはとても勇気がいり、こわいことです。にげてもかまいません。にげることは立ち向かおうとしている証です。きつとにげた先には、最も信頼できる相手がいると思います。もし、相手にいやだったと伝えられた時は、相手の意見もきちんと聞いてあげましょう。言う勇気がどれほどか知っているあなたならきっとできます。私も日々失敗を積み重ねながら生きています。しかし、今はその失敗のおかげで素敵な友達と出会いました。これからも、相手の気持ちを考えてよりよい友人関係を築いていきたいです。

